

科目名	ヨーロッパ言語圏 文化論特講	担当者	アキクサ 秋草 シユンイチロウ 俊 一郎	期間	通年	単位数	4
-----	-------------------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>欧米における文学・文化の潮流を理解するために「世界文学」の考え方を学ぶ。また、人文学全般の思考の枠組みを理解するために、現在の欧米圏の学術書の文献の水準を理解できるようになることを目標とする。以上を達成することにより、狭義の文学・文化のみならず、その流通や出版、さらには論理的・批判的思考能力をはじめ、問題発見・解決力、省察力を身に付けることを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 現在、重要な潮流である世界文学について理解し、それがどのようなディシプリンとして構成されているのか知ること。またレポートの文章表現も、内容にふさわしい高いレベルを達成すること。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 論文を書く上で必要な学術的な用語を正確に使えるようになること。理論書・文芸作品を精読し、自分のことばで分析できるようになること。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 インタラクティブなレポート提出システム manaba を用いる。</p> <p>【学修方略 (LS)】 自主研究。教材および関係資料を精読のうえで課題にとりくむ。レポート作成にあたっては、草稿から最終稿に至るまで、履修者と教員のあいだでやりとりをしながら段階的にすすめる。</p> <p>【学修時間】 各レポート課題の準備から完成までに、以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要するものとする。 教材の学修：15 時間 レポート執筆：15 時間 レポート推敲 (教員の添削指導を含む)・最終稿の完成：15 時間</p>		
スケジュール	<p>前期：6 月 10 日までに教材 1 のレポート課題(1)初稿を提出。 7 月 10 日までに教材 1 のレポート課題(1)最終稿を提出。 8 月 10 日までに教材 1 のレポート課題(2)初稿を提出。 前期提出期限までに教材 1 のレポート課題(2)最終稿を提出。 後期：10 月 10 日までに教材 2 のレポート課題(1)初稿を提出。 11 月 10 日までに教材 2 のレポート課題(1)最終稿を提出。 12 月 10 日までに教材 2 のレポート課題(2)初稿を提出。 後期提出期限までに教材 2 のレポート課題(2)最終稿を提出。</p>		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80 %	教材を精読理解し、課題に応える内容となっているか、また、学術論文の体裁が整っているか評価する。
	観察記録	20 %	メール、manaba 等を活用して積極的に課題に取り組んだかを評価する。
履修者への要望	<p>・基本教材 1 のレポートは、初稿から最終稿にいたるまで、教師のフィードバック・相互学習による推敲、最終稿の完成と段階的に進めること。上述したレポートの提出が遅れた場合は、成績が低くなることに留意すること。引用については盗用にならないように重々注意すること (悪質な場合は単位が取得できなくなる)。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： デイヴィッド・ダムロッシュ 教材名： 『世界文学とは何か？』（国書刊行会，2011） ISBN:978-4-33-605362-6 5,600 円＋税
	「世界文学」という概念を，現代のアメリカの文脈で論じたもので，時代・地域・言語もさまざまな表現活動を「生産・流通・翻訳」という三つの観点から分析している。
参考図書	秋草俊一郎編『文学 特集「世界文学」の語り方』（岩波書店，2016 年 10 月号） ISSN: 0389-4029 2,700 円＋税
履修上のポイント	21 世紀において，文学や表現活動を論じるうえでの問題意識はなんなのか。論者が「世界文学」と言うとき，前提とされている歴史的な問題はなんなのか，考えてみてほしい。
レポート課題 1	『世界文学とは何か？』における文化・文学の「流通」，「翻訳」，「生産」の考え方について説明したうえで，一つ以上の章をとりあげて要約しなさい。説明と要約は自分のことばで行い，教材の丸写しをさけること。説明と要約はそれぞれ 800 字以内程度におさめること。 留意点 ：従来の「世界文学」とどう異なるのか確認しつつ検証し，具体的に論述すること。
レポート課題 2	課題図書のアプローチを参考にして，具体的な一つ以上の作品について論じなさい。扱う作品は『世界文学とは何か？』で扱われていない文学作品（小説あるいは詩）とする。扱う作品からの引用を二カ所以上，適切な方法で行うこと。 参考文献・注・引用をのぞいた本文 5,000 字以上とする。出典の記載方法は問わないが，出版社・出版年・引用頁数がわかるようにすること 留意点 ：従来の「世界文学」とどう異なるのか確認しつつ検証し，具体的に論述すること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： フランコ・モレッティ 教材名： 『遠読——<世界文学システム>への挑戦』（みすず書房，2016） ISBN-13: 978-4874246733 4,600 円＋税
	現代において文学を論じるうえで，ひとつの作品を丁寧に時間をかけて読む「精読」ではなく，統計や二次資料などを活用した「遠読」という新しい手法を提唱している。
参考図書	パスカル・カザノヴァ『世界文学空間』（藤原書店，2002） ISBN: 978-4894343139 8,800 円＋税
履修上のポイント	21 世紀において，文学や表現活動を論じるうえでの問題意識はなんなのか。論者が精読にたいして「遠読」と言うとき，前提とされている歴史的な問題はなんなのか，考えてみてほしい。
レポート課題 1	『遠読』における「遠読」の考え方について説明したうえで，一つ以上の章をとりあげて要約しなさい。説明と要約は自分のことばで行い，教材の丸写しをさけること。説明と要約はそれぞれ 800 字以内程度におさめること。 留意点 ：従来の「精読」とどう異なるのか確認しつつ検証し，具体的に論述すること。
レポート課題 2	課題図書のアプローチを参考にして，具体的な作品（複数、あるいはその一部）について論じなさい。扱う作品は『遠読』で扱われていない文学作品（小説あるいは詩）とする。扱う作品からの引用を二カ所以上，適切な方法で行うこと。参考文献・注・引用をのぞいた本文 5,000 字以上とする。出典の記載方法は問わないが，出版社・出版年・引用頁数がわかるようにすること。 留意点 ：従来の「精読」とどう異なるのか確認しつつ検証し，具体的に論述すること。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の序章～1 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の 2 章～3 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の 4 章～5 章
第 4 回	教材の学修：基本教材 1 の 6 章～7 章
第 5 回	教材の学修：基本教材 1 の 8 章～終章
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 9 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 10 回	レポートで扱う作品の選定と読解
第 11 回	レポートで扱う作品の読解と先行研究の調査
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の 1 章～2 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の 3 章～4 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の 5 章～6 章
第 4 回	教材の学修：基本教材 2 の 7 章～8 章
第 5 回	教材の学修：基本教材 2 の 9 章～10 章
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 9 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 10 回	レポートで扱う作品の選定と読解
第 11 回	レポートで扱う作品の読解と先行研究の調査
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成